

## 直播向け水稻選抜のための押し倒し抵抗値指標品種の選定

いわてオリジナル水稻品種開発において、耐ころび型倒伏性に優れる系統を選抜するため、押し倒し抵抗値の指標品種を選定した。この指標品種を用いて系統を選抜することにより、耐ころび型倒伏性に優れる直播栽培向け品種の育成が期待できる。

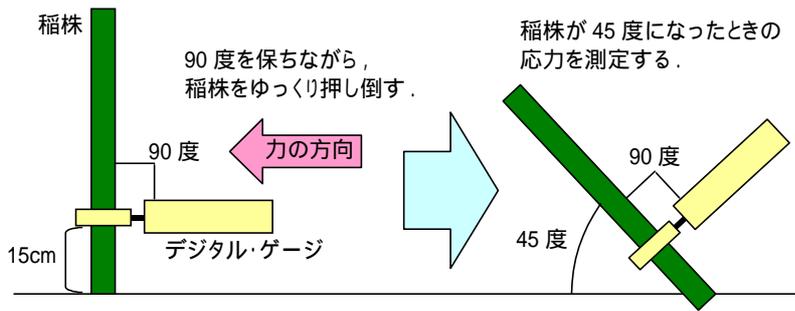


図1 押し倒し抵抗値の測定方法 (イネ育種マニュアル 1996, 尾形ら 1996)

1株3本・栽植密度22.2株/m<sup>2</sup>(30cm×15cm)で移植した株を用い、各品種・系統6株について2反復で調査する。

出穂期21日後に、デジタル・ゲージを地際から15cmの高さで株に対し直角に押し当て、株を45度の角度まで押し倒す際の応力(N)を測定する。調査株の穂数を調査し、1穂当たり押し倒し抵抗値を算出する。

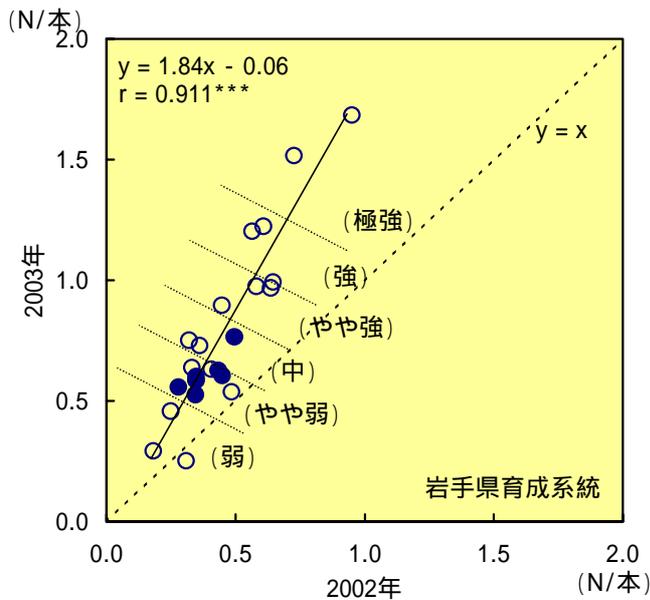


図2 供試品種・系統における1穂当たり押し倒し抵抗値の2002年と2003年の関係

両年次間には高い正の相関関係が認められることから、供試品種・系統における1穂当たり押し倒し抵抗値の相対的な順位には、年次による相違がない。

↓  
指標品種の選定が可能。

表1 移植株1穂当たり押し倒し抵抗値の指標品種

早晚性	ランク					
	極強	強	やや強	中	やや弱	弱
早生		(ふ系飼206号)	Precosus FA USSR8	Dunghan Shalli	Italica Livorno	Arroz da Terra 上育444号 北海PL8
中晩生	Vialone/Americano Sesia	M202 L201 攀農1号	M302	奥羽直376号 岩手68号	麗江新団黒谷 奥羽365号 (あきたこまち) (ひとめぼれ)	

育成系統と指標品種の1穂当たり押し倒し抵抗値を比較することによって育成系統にランクを付け、強い系統を選抜することで、耐ころび型倒伏性に優れる品種・系統が育成できる。